



人を育て 地域を創る

玉名市地域学校協働本部
事業だより第62号
令和4年9月21日

文責：玉名市教育委員会 社会教育指導員 村田二昭

「暑さ寒さも彼岸まで」といいますように

冬の寒さは(余寒)は春分の頃まで、夏の暑さ(残暑)は秋分の頃までには和らぎ、凌ぎやすくなる、という意味の慣用句です。気象庁が「異常気象」とした今年の夏が果たして静かに引いていくのかと心配しましたが、台風14号が通過した後、一気に涼しくなりました。朝夕は寒ささえも感じます。やはり「暑さ寒さも彼岸まで」のようです。あの「肌を刺すような陽射し」と「危険な暑さ」とはここでお別れしたいものです。

日の出は遅く、日の入りは早くなりました。吹く風に秋を感じるようになり、そろそろ衣替えを考える時期に。近所の田圃の稲は頭を垂れ初め、畔には彼岸花が色を添えています。見上げると、澄み切った青空には秋の雲が浮かんでいました。

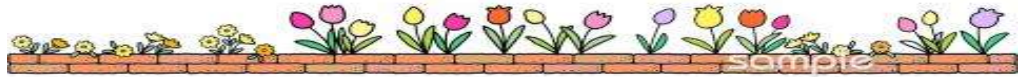


秋の雲 はてなき瑠璃の 天をゆく (山口誓子)

今年の彼岸は9月20日(火)から26日(月)まで。学校では前期の総括をされている頃かと思われます。令和4年度も折り返しを迎えています。

第62号、第63号で玉南中校区(八嘉小、伊倉小、玉南中)の活動の様子をお伝えします。

伊倉小学校



5/19 ポットに種植え



地域学校協働活動推進員の松本様の呼びかけで集まっていた地域の方々に、ポットに種を植えてもらいました。一つ一つ丁寧に作業していただきました。

6/16 花壇へ花植え



5月に種植えをして育った苗を花壇に移植していただきました。伊倉駅にも植えていただきました。



7/20 家庭科「ひと針に心をこめて」



地域学校協働活動推進員の松本様の呼びかけで集まっていた地域の方々に、5年生の家庭科「ひと針に心をこめて」の学習で、地域の方々に裁縫の仕方を教えていただきました。子供たちと共に活動出来て楽しいと語られていました。子供たちも丁寧に優しく教えてもらっていい作品ができたこと喜んでいました。

9/7 2年生「伊倉駅探検」



2年生の生活科「町探検」で伊倉駅を見学に行った時、地域学校協働活動推進員の松本様の呼びかけで集まっていた地域の方々やJRの方々から話を聞きました。子供たちは大喜びでした。

裏面あり



生活科の時間に、地域学校協働活動推進員の假屋さんと学校応援団の川田さん、早川さんをお招きして「まち探検」の学習を行いました。校区にお住まいの3名の方から、校区のことについて詳しく説明していただきました。



総合的な学習の時間に地域の祭りについて学習しました。その中で、玉名の盆踊りである「玉名音頭」について、玉名文化協会の林田さんを中心に地域の方に踊り方を教えていただき、8月に行われた「くまもと子ども芸術祭 in たまな」で披露しました。



祭りの立ち上げに関わられた黒田さんをお招きして、八嘉夏祭りについての学習を行いました。
【児童の感想】
 夏祭りについてお話ししてくださってありがとうございました。くわしく教えてくださったのでとてもよく分かりました。1年生の時にしかやっていなかったのが祭りのことを知ることができて良かったです。



地域にお住まいの谷口さんをお招きして、八嘉地域の歴史や人物について学ぶ学習を行いました。
【児童の感想】
 八嘉小が建てられるまでの歴史を初めて知りました。花作り委員会の歴史について、道路にゴミが多かったからゴミをなくす取組を一人でして共感した人が一緒にしていたと言う話が心に残りました。私は皆さんの思いを知ることができて良かったです。



＝編集後記＝

ある地域学校協働本部運営委員さんと話をしていると「校区の広報誌に地域学校協働活動の様子が紹介されていました。この事業も地域に浸透しつつあるようですね」とおっしゃいました。嬉しかったです。他の校区でも同じように、本事業を支館の広報誌、学校運営協議会の広報誌、PTA新聞、学校通信・学級通信などで取り上げていただいています。また、年度末には学校と地域の協働の様子をパンフレットにまとめ市内の公共施設等で発信されている校区もあります。誠に有難いです。

この活動に関わっていただいた方々が、共通のねらいを明確に持ち、確実に歩を進めておられることによりこの活動の「よさ」が発揮され、皆様はその「よさ」を実感できている。そのことが情報を発信し合うことに繋がっているのだと考えます。これこそ「文化」ではないでしょうか。

この事業だよりの配布先には限界がある中、更に地域の隅々まで毛細血管のようにエネルギーを伝えていただいていることに感謝申し上げます。それはまた、本事業に関わって下さる大勢の方々の熱意に他なりません。感謝申し上げます。そして、これからもよろしくお願いします。

こんな大学入試問題があります。

「ある星から地球にやってきた宇宙人が、次のような質問状を残していきました。
 『地球でいちばん驚いたことは、地球人が国という単位に分かれて暮っていて、国ごとに異なる制度の下で競い合っていることです。私たちの星には、国という制度ばかりか、その概念すらありません。そこでお聞きしたいのですが、地球人はなぜ国という単位に分かれて暮らすことを好むのですか？』
 以上の質問状に書かれた問いに答える形で、宇宙人への返事を400字程度で書きなさい。」

2013年度慶応義塾大学法学部 FIT 入試問題です。単なる知識の暗記だけでは答えられない問題だし、答えも一つには限定されないでしょう。そして、誰がどのように評価するのでしょうか…。さて、皆様でしたらどのように返事を書かれますか？